

モデル事業名	震災復興コミュニティファンドによる地域経済の再生とまちづくり推進事業
活動団体名	特定非営利活動法人 輪島土蔵文化研究会
ホームページ	http://wajimadozo.sakura.ne.jp/
所属/ 担当者名	水野雅男 (NPO 法人輪島土蔵文化研究会副理事長/金沢大学教員)
連絡先	mmasao@mb.infoweb.ne.jp
活動地域	石川県輪島市鳳至町・河井町地区

● 活動地域の概要

対象地域（輪島市中心市街地）の人口は約25千人、高齢化率は約31%（平成17年国勢調査）であり、過疎化と高齢化が急ピッチで進展している。朝市を中心とした観光業と輪島塗の工房が集積しているが、平成19年3月に発生した能登半島地震により大きな被害を受け、回復の兆しがまだ見えない状況にある。



【位置図】

【損壊しこれから修復される土蔵（上）/左官技術研修プログラム（下）】

● 活動地域の課題

まちなかエリアでは、数多くの土蔵が取り壊され、地域の個性が喪失しかかっている。同時に、土蔵を修復する左官職人やその技術が地域内で消滅寸前であり、取り残された土蔵群を修復活用する手だてが見つからない状況にある。

● 活動の内容

・平成20年度

- ① 新たなコミュニティ活動支援「土蔵へどうぞ」の構築
- ② 「土蔵からのプレゼント」（新商品）のデザイン開発
- ③ パンフレットとマスコミによる告知
- ④ 協力者へのアンケート調査実施

・平成21年度

- ① 「土蔵へどうぞパートII」として、webを通じた告知と募金のためのホームページの構築と運用
- ② 「土蔵からのプレゼントII」として、土蔵から救出した輪島塗の器の仕上げ加工
- ③ webを通じた協力者へのアンケート調査

● 活動の成果

・平成20年度

- ・ 約175名から約200口（約600万円）の協力を得られ、土蔵からのプレゼントとして清酒と輪島塗の猪口を贈呈した。
- ・ NPO法人輪島土蔵文化研究会は、約210万円の活動資金が得られた。
- ・ アンケート調査では、協力者はプレゼントを第一義として求めているわけではなく、このシステムを通じて被災地のまちづくり活動や地場産業を支援することに意義を感じていることが判明した。また、まちづくり活動への支援、支援金の使い道が明確であることが評価されている。さらに、他の被災地への協力意向に関しては、是非とも支援したい（21%）、支援する産業や活動次第（67%）、被災地の場所次第（21%）ということであり、本事業の汎用性が証明されている。



【協力者へ贈呈された土蔵からのプレゼント】

・平成21年度

- ・ ホームページを通じて告知を始めたばかりでまだ反響は見えない状況にある。



【地元職人と漆芸研修生の協働作業により完成した土蔵からのプレゼントⅡ】

【web 送金も可能なホームページのトップページ】

● 今後の課題及び展望

・ 課題

本事業を通して、まちづくり活動を資金面で支援協力してくれる方々と、情報や物資のやりとり（キャッチボール）をすることは意義のあることだと判明した。同時に、このようなしくみでまちづくりの活動資金を集めることが可能であることも明らかになった。ただ、このシステムを広く告知することが最も重要であり、その有効な手段をさらに検討する必要がある。

・ 展望

これまでに協力してくれた方々との情報交換を密にするために、定期的にニュースレターを発刊し、輪島を訪れた時に土蔵の見学などを受け入れられるような体制を整えていかねばならない。